

第5講 様々なセンサを用いる

Arduino の Analog Input を用いて光センサや圧力センサの値を取得してみよう。

1 Processing の画面に文字を表示する

Processing では、矩形や円のような図形だけではなく、文字を描くこともできます。文字を描画するには `text()` を用います。また、`PFont` と `textFont()` を用いることによってフォントの種類や大きさを変更することができます。

`PFont` を用いて任意のフォントを使用するためには、フォントファイルを用意しなければなりませんが、Processing には簡単にフォントファイルを用意するための機能が備わっています。

1. メニューから Tools → Create Font を選択する
2. 使いたいフォントを選択する
3. フォントの名前が表示されているのを確認する (例、Serif-48.vlw ← コイツを覚えておくこと！)
4. OK ボタンを押す

これで、`data` フォルダ¹の中にフォントファイルが生成されたと思います。`loadFont()` を用いて生成したフォントファイルを読み込むことで、好きなフォントを使うことができます。

```
PFont font;

void setup() {
  size(300, 300);

  // Create Font で作ったフォントを読み込む
  font = loadFont("Serif-48.vlw");
}

void draw() {
  background(255);

  textFont(font, 32); // 使うフォントとその大きさの指定
  fill(0);
  text("Interactive Art", 32, 32); // 文字を描く
}
```

このプログラムを実行すると、Processing のウィンドウの中に Interactive Art の文字列が描画されると思います。できましたか？

¹作成しているプログラムと同じフォルダの中にある。フォントファイルや画像ファイルなど、プログラムから読み込みたいファイルなどはここに入れておくとよい。メニューの Sketch → Show Sketch Folder から作成しているプログラムが入っているフォルダを開ける。

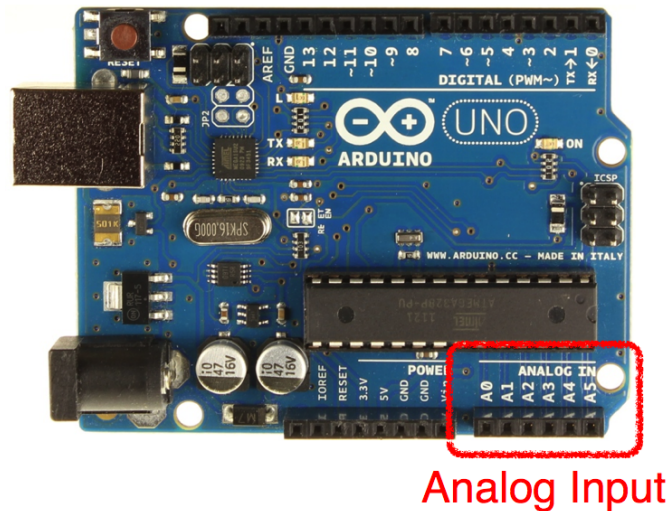
2 Analog Input

Arduino には、Analog Output と同様に Analog Input もあります。Analog Input を用いる場合は A0 ～ A5 ピンに接続してください。

Processing から Analog Input を使って値を取得するには、

```
arduino.analogRead(pinNum);
```

を用います。pinNum は 0 ～ 5 (それぞれ、A0 ～ A5 に対応) で指定してください。Digital Input を用いたときのような、PIN モードの設定は必要ありません。



3 光センサを使う

光センサとは、表面に当たる光の量に従って抵抗値が変化する電子部品です。周りが暗いと抵抗値が大きくなり、明るいとき抵抗値が小さくなります。テスターを使って抵抗値の変化を測ってみましょう。

実習で使う光センサは CdS セル (CdS: 硫酸カドミウム) を主成分とするものです。

● 利点

- 可視光線に対して高感度
- 小型で軽量
- 比較的安価

● 欠点

- 反応速度がやや遅め
- カドミウム = 有害物質 (ゼットイに食うな!)

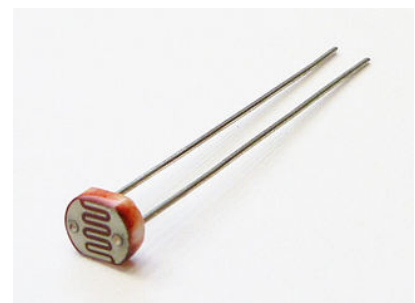


図 1: CdS セル

光センサの値を取得する

光センサの値を取得するためには、Analog Input を用います。Analog Input を使う場合は前述のように A0 ～ A5 ピンを用いる必要があります。接続するピンに注意してください。

回路

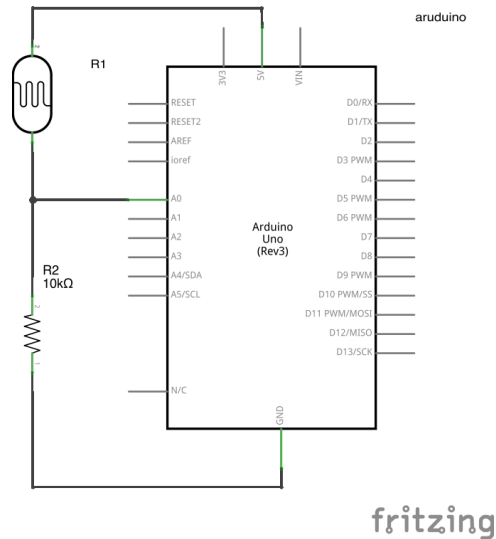


図 2: 光センサの回路図

プログラム

```
import processing.serial.*;
import cc.arduino.*;

Arduino arduino;
int sensorPin = 0; // 光センサを A0 番ピンに接続する場合
PFont font;

void setup() {
  size(300, 300);

  arduino = new Arduino(this, Arduino.list()[0]);
  font = loadFont("Serif-48.vlw");
}

void draw() {
  background(255);

  int sensorValue = arduino.analogRead(sensorPin); // Analog Input

  textFont(font, 32);
  fill(0);
  text("sensor_value: " + sensorValue, 32, 32);
}
```

4 圧力センサを使う

圧力センサとは、感圧面に加重することにより抵抗値が変化するセンサです。タクトスイッチなどの、ON/OFF を検出するスイッチとは違い、押した強さを検出できます。

回路とプログラムは光センサのときと同様です。光センサを圧力センサに差し替えれば使えます。やってみましょう。

圧力センサ (や曲げセンサなど) は、LED や抵抗、光りセンサなどの部品よりも**非常に高価なので壊さないように注意してください！**

- ピンが折れやすいので注意すること！
- ブレッドボードに差すときは、ピンに近い部分を持つこと (無理に差さないように)
- フィルム部分を曲げすぎないように

5 曲げセンサを使う

曲げセンサとは、センサ本体を曲げることにより抵抗値が変化するセンサです。プリント面を外側にした状態で曲げると抵抗値が増加します。1つの曲げセンサだけでは、片方向への曲げしか検出できませんが、2つを重ねて用いることによって、両方向の曲げを検出できます。

曲げセンサも光センサや圧力センサと同様に使えます。すみませんが今回は前で見せるだけにします。



図 3: 圧力センサ

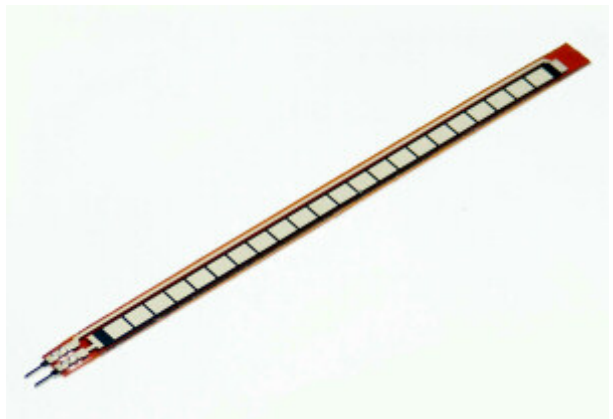


図 4: 曲げセンサ